

「一目でここに住もうと決めました」。NPO法人「そのつ森」の太田茂樹さんは二十年前に東京から宮城県丸森町へ移住、みそ作りをしています。

仙台から車で約一時間半、「東北の美しい未来創造塾」の一環で訪れた丸森町は、県の南端に位置する人口約一万四千人の自然の恵み豊かな町。過疎・高齢化に直面する中、震災後の放射能汚染や風評被害で大きなダメージを受けました。太田さんは震災後、子供たちを守りたいと自分たちで除染を始めました。「お年寄りも子供たちも自然に交流できる場所にしたい」と今、廃校を福祉施設にす

東北復興日記

118



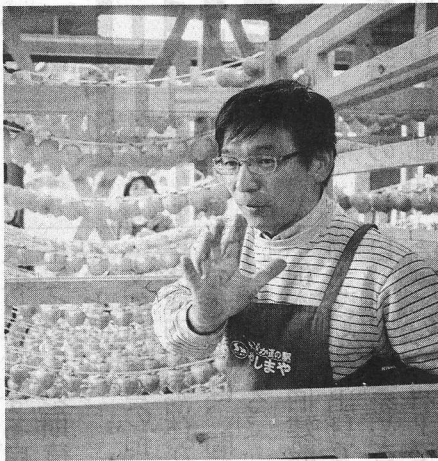
テレコム
メディアセンター
仙台
小田嘉子さん

自然生かし町にぎやかに

るリノベーション(改築)に取り組まれています。お話を伺った筆甫まちづくりセンターで圧倒されたのは、壁一面を埋める写真の数々。地域の家族、結婚式、子供たち。「にぎやかだった時代を

取り戻したくてね」と、地元住民の木皿理さんが、セピア色の笑顔の写真にやさしいまなざしをおとします。

午後はやしまや」で干し柿作り体験。ホスピタリティあふれる八島哲



郎さん「写真」の軽快なトークですが、主力だったタケノコを毎日七百キも掘っては廃棄した苦い経験もされました。「被災してはじめて身にしむその痛み」。これがね、本音」と。しかし、「あなたハートをいころちヨコ」という名の干し柿(ころ柿)にビターチョコをコーティングしたスイーツの開発など、八島さんの挑戦は続きます。

「カフェつぶつこ」では、地元の雑穀を使ったシフォンケーキをいただきました。丸森を元気にしたい!と自宅をカフェに改造し起業した佐藤真紀さん。当初は地元の方々と葛藤もありましたが「見方を変えてわかることもある」。今あるものを受け入れられるしなやかさでカフェは交流・にぎわいの場になりました。

自然と共にあることに気づかせてくれる丸森の時間。豊かな資源を生かすには、まず現地を訪れ、体感することが一歩となるのではないだろうか。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。